

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年11月27日

BMJ:

パクスロビドの4分の3は豊かな国で使われており、この薬が必要な貧しい国にはまったく行き渡っていない

【松崎雑感】

原文では「グロテスクな不平等」と表現しています。気候問題でもそうですが、貧しい国々を収奪してきた先進国には、命を救うための資源を貧しい国々に提供する道義的義務があります。ワクチン、抗ウイルス薬を低中所得国の人々が使えるように、特許の問題をはじめとした企業権益の制限を通じて、実現する必要があります。

パクスロビドの4分の3は豊かな国で使われており、この薬が必要な貧しい国にはまったく行き渡っていない

Iacobucci G. Covid-19: "Grotesque inequity" that only a quarter of paxlovid courses go to poorer countries. *BMJ*. 2022;379:o2795.

Published 2022 Nov 20. doi:10.1136/bmj.o2795

オクスファムとPeople's Vaccine Allianceの調査によれば、ファイザー社の経口新型コロナウイルス治療薬パクスロビドの4分の3が豊かな国で使われており、貧しい国々で使われたのは4分の1に過ぎないという。

この薬はニルマトレルビル+リトナビルの合剤で、WHOは、発病時軽症だが、ワクチン未接種、免疫低下疾患ありなど重症化、入院リスクの高い人々に投与を強く推奨している。

Airfinity社の調査によれば、出荷されたパクスロビドのうち、世界人口の84%を占める低中所得国に割り当てられたのは26%（1122万1666人分）に過ぎなかったという。

残りの74%（3182万8千人分）は世界人口の16%を占めるに過ぎない高所得国に割り当てられた。

ワクチン接種率が低い低中所得国こそパクスロビドが必要だと、アドボカシー団体は主張している。

African Population and Health Research Center代表キャサリン・コブトウング氏は、「投与の簡単な経口薬をこれらの国々の人々に投与することで、入院と死亡を減らすことができる。ロングコロナリスクも減らすことができる。残念なのは、この薬剤の恩恵を受けられるのが豊かな国の人々に偏っていることだ。豊かな国に住んでいるだけで、この治療が簡単に受けられる一方、貧しい国に住んでいるがために命を救える治療を受けられないという事は、許容しがたい差別だ。貧しい国の人々は、ワクチンを受けるチャンスが得られず、数百万人が命をうしなった。今度は良い治療薬を手に入れることができないために、再び貧しい国の人々が死ぬ事態となっている」と語った。

オクスファムの報告書によれば、ファイザー社がパクスロビドの販売価格を独占的に決めているため、1人あたり250ドルでこの薬を購入せざるを得ない中所得国がある。

一方クリントンヘルスイニシアティブを通じて、ファイザー社と非公表のジェネリック薬品会社から1人あたり25ドルで購入できている低所得国もある。

この6月に、18か月にわたる交渉の末、WTOは、新型コロナ治療に関連する医療技術の知的所有権放棄をワクチンだけに認めて、薬剤については認めないという決定を出した。

オクスファム等は、WTOに新型コロナ治療薬と検査について知的所有権放棄を拡大すべきという声明を11月22日に出した。

People's Vaccine Allianceの共同代表モーガ・カマル・ヤニ氏は「WTO加盟国は、企業の利益よりも人々の健康を優先する立場に徹するべきだ」と述べた。

オクスファムの健康とワクチン格差解消担当上級アドバイザージェニファー・リード氏は「WHOは、パクスロビドが人々の命を救うことをしっかり認識している。しかし、特許権という壁が貧しい国の人々の命を守るうえで大きなバリアとなっている」と語った。